



20年経って、あらためて思う。

本屋は、**温もりと思い出で**
できている。

注射を我慢したご褒美に買ってもらった本を抱えて帰った幼い日。
お小遣いを握りしめ、文庫の棚を見て回るのが日課だった
中高生の頃。その書店さんでアルバイトをして、書店の仕事の
大変さと喜びを知った大学生の頃。恋人と書店で待ち合わせていた
(ので、待っても、待たせても気にならなかった) 若い頃。

人生の道の上で出会った本たち、
共に過ごした大切な人たちの面影——
ネット注文では得られない温もりと思い出が、
本屋さんにはつまっているのです。

2015年大賞「鹿の王」

全国の書店員が選んだいちばん売りたい本 **本屋大賞 20th 開催中!**



手帳ブランド NOLTY[ノルティ]は本屋大賞を応援しています。

NOLTY
SINCE 1949